

平成21年度第2回石狩浜海浜植物保護センター運営委員会

日時:平成21年9月15日(火)13時~16時

会場:現地視察後、市役所202会議室

出席:石川 治、瀬野一郎、安田秀子(会長)、萬谷優子、渡辺千秋、

事務局:有田英之(センター長)、内藤華子

会議録

1. 現地視察について

石狩浜車乗り入れ規制地域を、三線から本町方向へ向かって、ロープが切られてバギー車の進入が止まない箇所(札幌土木現行所管理区域)、ワイヤーによる柵補強でバギー車の侵入が減少した箇所(石狩市自主規制区域)を視察。ワイヤーによる柵補強の効果を確認した。

安田 札幌土木現業所(以下札土)へ、車乗り入れ防止柵を、ロープよりもっと頑丈なものにするようにと要望できないか。

有田 先日、札土も含む石狩浜環境保全連絡会議を開いた。市が実施したワイヤー補強柵の効果は認めていたが、札土側の補強は難しいとのことだった。三線側がバギー車の入り口になっていて、市で設置している箇所までは約3kmほどあるので、それまでの区間を走行することである程度満足して、あえて柵を破壊してまで走行しようという気持ちにならないのではとのこと。従って、札土側も市と同様の対策をしたからといって、同様の効果があるとは簡単には言えないようだ。それから、監視もなかなかできない現状がある。最終的な結論ではないが。

安田 松島さんのデータ(資料2009年「石狩海岸砂丘草原車両走行状況」)では、今年はシーズン半ばであるが走行台数はそれほど多くないようだ。

有田 自動カウンターの設置箇所が、札土管理区域の中でも三線側の入り口から最も離れた箇所で、市の区域に近い。市が柵補強したので、その手前で引き返す車両も多く、過少計測された可能性もある。また、天候不順で走行数自体が少なかった可能性もある。

2. 地域交流会について

有田 今年のハマボウフウ交流会の開催案内が昨日、名取はまぼうふうの会から届いたが、今年はセンターとしては参加できないということで返答してある。前回の委員会でも話したが、来年についての石狩での開催について、引き続き協議したい。

安田 交流会は、石狩で開催しなければならないという方向なのか。

有田 開催しなければならない、ということではないが、名取ハマボウフウの会の方からは、記念すべき10回目はぜひ石狩で、と依頼があった。

石狩で開催するにしても、どのようなやり方で開催するかが重要。石狩以外の地域では、地元の市民団体が主催して開催している。石狩で開催するにしても、大きな予算はかけられない。だが、市民グループの力を借りれば、宿泊等は自己負担とし、会場は公共施設を使い、開催できないことはない。検討することは、１．石狩でやるかやらないか ２．開催の仕方、である。

萬谷 石狩での保護活動の成果は、発表に値するか。

内藤・有田 保全の対策、施策や、市民グループの活動など価値は、十分にある。

萬谷 石狩で発表することによって、各地の活動のプラスになるなら、開催したほうがよいと思う。

瀬野 はまなすの丘が保護され、ハマボウフウが増えているのは大きな成果だと思う。

萬谷 開催の時期は？

内藤 開催の時期は開催地事務局で決めることができる。

安田 海岸の自然を守るにはどうしたらいいか、という視点が必要と思う。

萬谷 本来あった健全な海岸とは、という意味ですね。

石川 交流の意義はあると思うが、海岸の自然を守っていく上で交流することがどのくらいの力になり得るのか、という視点が大事。ただ交流だけすればいいというのでは、まずいと思う。

有田 交流の必要性をきちんと整理しておかないといけない。単なる懇親が目的だと市民レベルでやるべき。保護センターが主催するのであれば、なぜ石狩で、という説得性がないと、開催は難しいと思う。

石川 内輪の交流では開催する必要はないと思うが、海岸に興味関心を持った人たちの中で意見交換し、保全に取り組んでいく何らかの方法が出てきたら、世の中へ発信していかなければならないと思う。

有田 来年石狩で開催となれば、石狩浜の砂丘が破壊されている状況をわかってもらうことも一つの目的になるので、マスコミに発信することも必要。しかし、一回の開催で終わってしまうのでは、開催の意味が薄れる。

では、予算はあまりかけずに、開催するという方向で、交流会の中身については、継続して考えていたい。

安田 センター設立当初の目的のなかに、将来は海浜植物保護のサミット開催のような考えもあったようだ。社会的にも生物多様性の保護や海岸環境の重要性が言われている状況でもあり、保護のために何をすべきか発信していく、という意味でも開催にはいいタイミングでないか。

有田 予算の取りまとめ時期が11月なので、経費を要するのであれば、中身についてはそれまでに詰めたい。

3. 平成22年度事業について

有田 以下、各項目の説明。資料(平成22年度事業(案))に挙げたのは、新規分の事業としてである。これ以外については、例年通り実施の考え。人的、労力的にできるかどうかまだ検討段階で決定ではない。

石狩浜の環境保全のあり方について

- ・河口から三線までの環境保全の具体的なビジョン作成を念頭においた調査等の実施。
- ・海水浴場をはさんだ両側1kmほどの区間は、石狩市が自主規制して15年経った。今年、ワイヤー等での補強によって侵入が防げることがわかった。保全対策の次の一步を踏み出す状況になってきたかと考えている。札土管理の海岸保全区域についても平成17年から柵を設置しているが、バギー車等とのいたちごっこが続いている。市として、まとまるのは数年かかるかもしれないが、石狩浜全体をどう考えるか、というビジョンを明らかにした上で、これに基づいて、対策を講じていくべきと考えている。

海浜生態系のデータベース化

- ・過去や今後の調査、ボランティアの調査も、いろいろな調査の結果を後からでも使いやすい形で保管しておき、必要になったときに活用できるように、植生、動植物、地形など、データとして取れるものは、すべて蓄積しておく。

石狩川河口地域地形および植生変化の把握、平成元年調査メッシュの復元

- ・石狩川河口部の汀線がかなり変化している現状があり、地形の状況を把握しておきたい。ボランティアさんの力を借りて、植生をモニタリングするなど、変化を把握していきたい。
- ・平成元年にはまなすの丘植生の全面調査をしたが、5年10年スパンで変化を押さえていく必要を感じている。継続的にモニタリングしていくのであれば、場所の特定をしておく必要があり、はまなすの丘のメッシュ復元を含めて、三線までできれば、と思っている。

石川 GPSをいつも持ち歩いているので、地形変化の把握調査への協力は惜しまない。

安田 定期観察でも、はまなすの丘のメッシュのような共通の目印は必要だ。

有田 メッシュを復元し、調査の情報を共有したい。

安田 植生のモニタリング等、学校等での学生実習などで取り組むようなしくみを考えてはどうか。

有田 自然系の専門学校などにも、提案してみたい。学校にとっては実習というメリット、センターにとっては、調査結果を提供してもらうというメリットがある。

安田 については、全体として重要なことだと思う。

石川 どれも実行できればよいと思う。

4. その他

有田 石狩浜の砂丘植生破壊について防止できないかと、総務省北海道管区行政評価局の行政相談員が利用者から相談を受けたようで、行政評価局の相談官から現状についてセンターでヒアリングを受けた。石狩浜の保護の経緯から現地の実態まで、確認していった。対象区域は国有地で、管理者として保全できないのか、という角度から、管理者である札土に、事実確認と保全の提案をするということだった。

萬谷 保全に向けた大きな力になるかもしれない。

有田 はまなすの丘の木道をあずまや裏まで延長する構想が中止となったが、再び実施するかも知れない状況にある。実施となると、雪が降る前に株の移植等、ボランティアさんたちをお願いすることになると思う。

安田 木道延長実施が決定した場合、材質、幅等、早めに工事内容を教えてほしい。

有田 了解。

以上

確認しました。

平成21年10月14日

石狩市石狩浜海浜植物保護センター運営委員会 会長 安田秀子